



工藤篤子メールマガジン 175号 2011.06.28

●北米ツアー

6月14日～24日の北米ツアーを終え、無事、ハンブルクに戻りました。

主の導きと祝福をいただきながら、シカゴ、ミシガン州、トロントにて、感謝に溢れる奉仕をさせていただくことができました。皆さんのお祈りのお支えに、心から感謝しています。

●日本人のために

今回のツアーで、これまで、邦人教会の働きに加えて、アメリカ人、カナダ人の伝道によっても、北米在住の日本人が救われ、多くの日系人集会、教会が出来てきたことを知り、大変感動しました。



ミシガン州でコンサートをさせていただいたフェイス・カベナント教会（カベナント教団）とクライスト・コミュニティー・チャーチ（改革派）も、それぞれ日本人のために祈り支えて来て下さった教会です。特に、フェイス・カベナント教会（写真）は、5年前から日本人のために祈り始め、ジャパニーズ・ミッション（North American Japanese Outreach）を始めた教会で、今回の日本人による伝道コンサートを、自分たちの祈りのひとつの実として心から喜んでくださいました。

カナダのコンサートを主催してくださった CJM（カナディアン・ジャパニーズ・ミニストリーズ）

<http://www.jgct.com/cjm/index.html> は、ひとりの若いカナダ人女性、マーガレット・リッジウェイ女史の伝道から始まりました。彼女は1930年後半から、日曜学校で日系人の子供たちに福音を伝えていました。太平洋戦争が始まった翌1942年、その子供たちも、山奥の収容所に移って行きました。

その時、マーガレットに、「山に登り、木を持ってきて家を建てよ。そうすればわたしはこれを喜び、かつ栄光のうちに現れると主は言われる。」(ハガイ 1:18) のみことばが与えられ、何も持たないで家を出、日系人が収容されているブリティッシュ・コロンビア州の奥地に向かいました。主は彼女に小さなコテージを与えてくださり、そこで日系人との集会が始まりました。

その後同労者が与えられ、集会はさまざまな地に広がって行きました。そして 1946 年に CJM (カナディアン・ジャパニーズ・ミッション、2002 年にミッションをミニストリーズと改称) が組織され、1955 年には、トロントで、CJM の牧師、宣教師により、「トロント日系福音教会」が誕生しました。ここが、今回、私がコンサートをさせていただいた教会です。CJM は、現在、10 以上の教会、集会へと成長しています。



写真：トロントのコンサート後、教会のロビーにて。右から、マーガレット女史を通して導かれた CJM 責任者のカナシロ師、トロントのコンサートをオーガナイズしてくださったジーザスファミリー <http://thejesusfamily.ca/home.html> の岩井曜子さん、今回も素晴らしい賛美伴奏をしてくださったピアニストの野田さん、私、カナシロ師夫人、佐藤牧師夫人

●ザ・トランスレイターズ

今回のツアーでは、通訳者を立てず、トークの英訳を同時にスクリーンに出しました。通訳にかかる時間節約のためです。けれども、この翻訳作業が大変だったようです。それは、証しもメッセージも霊的なことを伝えるものであるがゆえに、訳者も同じ霊的視点に立たなければ出来ない作業だからです。また、日本語を英語に直訳しても理解できない表現がたくさんありますから、アメリカの皆さんが分かる表現にしなければなりません。

コンサート間際になって、シカゴでやっと翻訳を校正してくださる方が見つかりました。その直前には、翻訳中の兄弟が体調を崩したと聞いたので、本当に祈りました。大変な中でしたが、その兄弟は、シカゴ、ミシガン州、トロントの全コンサートのトーク内容を英訳してくださいました。そして、クリスチャンで新聞社の編集業務をしているプロの方が、そこから全体の共通部分とシカゴの部分に分かりやすい表現に、さらにミシガン州・トロントの部分は、カベナント教団ミシガン州の教区事務責任者をされている、元教師の姉妹が、同様に実に霊的な内容に校正してくださいました。



目に見えない奉仕ですが、主はこの作業をこの上なく祝福してくださいました。というのは、私のトークとシンクロナイズで映し出される英訳を読んで、コンサート後、多くのアメリカ人が、「あなたの証しに心打たれました」と言って来られたからです。「工藤さんではなく、イエス様が真ん中に立っておられた」「イエス様ご自身が私に語ってくださった」と言って来られた方もありました。「キリストのしもべ」として仕える者には、喜びこの上ないコメントでした。翻訳に携わってくださった皆さんの愛労に、心から感謝しています。

写真：シカゴ・ルーマニア人バプテスト教会でのコンサート。主催者のシカゴ日系人キリスト教会協議会の皆さんだけでなく、ルーマニア人の兄弟姉妹も、PA 奉仕、ビデオ録画など、コンサートのために尽力してくださいました。

●世界宣教仕掛人

私が密かに「世界宣教仕掛人」と呼んでいる人たちがいます。時に世界中をかけ巡り、時に彼らが行くところに日本人集会が始まり、教会が建ち、世界中のクリスチャン・ネットワークをつなぎ、皆を励ましている人たちです。そのひとりが、今回の北米ツアーのオーガナイザー、三上洋輔さん（トップ写真右、左は奥様のロイスさん）です。今回のツアーは、三上さんが一年という歳月をかけて、シカゴ、ミシガン州、カナダでのコンサートを、各地の主催者との連携プレーで、素晴らしいオーガナイズをしてくださいました。

三上さんは、オランダ駐在時代、JCFN（ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ニザーランド）<http://www.jcfn.nl/jp/jp-home.html> 設立前の初期に深く関わった方です。現在はお仕事を引退され、ミシガン州に住みながら、奇しくもオランダ日本語教会と同じイニシャルの JCFN（ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ネットワーク）<http://jcfn.org/dir/> の理事や、さまざまな伝道奉仕をされています。

「世界宣教仕掛人」－この人たちは、あくまでも影の「仕掛人」に徹し、表に出てきません。もちろん、本人たちには、私が勝手に呼んでいる「仕掛人」としての意識はなく、その働きに召され、神の導きに従いながら、忠実に仕える「しなやかな勇者」、「祈りの兵士」たちです。神から伝道への熱いパッションを注がれ、バランスの取れたメンタリティーを持ち、教団教派を超えた自由人として、世界中のクリスチャンと繋がって行くのです。私は、世界宣教は、神がこのような「仕掛人」を備えてくださったからこそ、ここまで前進して来ることが出来たし、これからも前進して行くのだと思っています。

神の御手の中でそれぞれの賜物が用いられ、互いに力を合わせて仕え合うことができるのは、大きな喜びです。今回の北米ツアーにて、オーガナイザーの三上さん、メッセンジャーの黒田牧師（シカゴのみ）、ピアニストの野田さん、各地のコンサートの主催者、奉仕者の皆さんと心をひとつにして祈り、交わり、福音宣教の働きをさせていただけた素晴らしい恵みに、心から感謝しています。

7月は、一カ月間、賛美曲の録音とその準備に当てる予定です。どうぞ、主に用いられるCDが出来ますよう、お祈りください。

主の溢れる恵みが皆様と共にありますように！

Atsuko Kudo

ミシガン州ノースヴィル、「ミル・レイス歴史村」にある、19世紀の復元ホテル「キャディ・イン」
このホテルは、南北戦争時代（1861 - 1865年）、【アンダーグラウンド・レイルロード】－アメリカ南部から逃げる奴隷をかくまい、北に逃がす地下組織－として、奴隷たちをかくまった。ミシガン州では、多くのクリスチャン、教会が、【アンダーグラウンド・レイルロード】として、南から逃亡してくる奴隷たちを助けた。

